

受給事例 がん

事例 1 肺がんで年間約 210 万円を受給できたケース

相談者	男性（50 代）
傷病名	肺がん
決定した年金額と種類	年間約 210 万円／障害厚生年金 1 級
家族構成	妻、子供と三人暮らし
従前の状況	右肩や背中での痛みで受診した結果、手術不可能なレベルの肺がんとの診断を受けた。右肩と上肢の痛みと強い痺れがあり、痛みの治療と抗うつ薬も併用していた。放射線治療や投薬治療で何度か入院も繰り返した。
現在の状況	月 1 回の外来通院で投薬治療を続け、訪問リハビリで患部のマッサージや歩行の指導を受けている。全身の倦怠感や頭重感があり、日中のほとんどは自宅で横になっており、家族の援助が不可欠な状態。
就労状況	無職

事例 2 乳癌で年間約 215 万円（遡及分約 500 万円）を受給できたケース

相談者	女性（50 代）
傷病名	乳癌
決定した年金額と種類	年間約 215 万円（遡及分約 500 万円）／障害厚生年金 2 級
家族構成	夫と子ども 2 人
従前の状況	約 4 年前に右胸部の張り感や痛み等を自覚し病院を受診したところ乳癌であることがわかった。化学療法を受けた後、乳房全摘手術、続いて放射線治療を行ったものの、治療開始から約 1 年後には肺転移が見つかった。発病後、仕事はままならず家事全般も家族等にやってもらっていた。
現在の状況	数年前から治験薬での治療を継続している。自覚症状として全身的疼痛、倦怠感、不眠、浮腫、筋力低下、精神的な落ち込み等がある。外出は必要最低限で炊事や掃除等は家事代行サービスを利用している。
就労状況	休職中

事例 3 子宮頸がん・出血性ショック・鉄欠乏性貧血で年間約 60 万円を受給できたケース

相談者	女性（40 代）
傷病名	子宮頸がん・出血性ショック・鉄欠乏性貧血
決定した年金額と種類	年間約 60 万円／障害厚生年金 3 級
家族構成	一人暮らし
従前の状況	約 3 年前からおりものが増え生理不順になっていた為病院を受診して精査したところ子宮頸がんと診断された。医師から抗がん剤や放射線が効きにくく治療効果があまり期待できないと言われた為食事療法等を試してみたが症状は徐々に悪化していき子宮患部から何度も大量出血を繰り返すようになり一時外出もままならない状況となった。
現在の状況	自宅内では 1 日の半分以上はベッドで横になっていることが多く、出血が続いている為輸血や止血剤での治療の為月に数回通院をしている。全身倦怠感、動悸息切れ、浮腫み、めまい、貧血等がある。
就労状況	無職

事例 4 右舌癌再発で年間約 180 万円（遡及分約 250 万円）を受給できたケース

相談者	男性（50 代）
傷病名	右舌癌再発
決定した年金額と種類	年間約 180 万円（遡及分約 250 万円）／障害厚生年金 2 級
家族構成	妻と二人暮らし
従前の状況	30 代半ばに右舌の下付近に口内炎が出来て数か月間治らなかった為病院を受診したところ舌癌と診断された。放射線治療と化学療法で約 5 年間治療を行い舌癌は根治した。その後約 10 年間身体に異常はなく仕事も日常生活も充実した日々を過ごしていた。しかし 3 年前に再び舌癌と診断され、手術で右下半分を切除した。
現在の状況	月 1 回の外来通院で経過観察をしている。硬いものを噛むことが出来ず 食べ物はお粥、キザミ、ミキサー食である。また飲み物はトロミをつけなければ毎回むせてしまう。人と会話をする為には筆談やメールが必須。
就労状況	一般企業で就労中